

第2学年 英語科 シラバス（学習の進め方）

名張市立 桔梗が丘中学校

1. 英語科の目標

- 英語学習を通して、外国や自国の言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- 国際語としての英語を学びながら、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

2. 身につけたい力

Listening(聞くこと)	○好きなことや日常的にしていることについての短いスピーチなどを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。 ○身近な人や有名人について、対話やスピーチなどを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。 ○体験したことやその感想などについてクラスメートのスピーチなどを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。
Reading(読むこと)	○好きなことや日常的にしていることについて書かれた自己紹介ポスターなどを読んで、主な内容を読み取ることができる。 ○有名人や身近な話題についての紹介文などを読んで、主な内容を読み取ることができる。 ○物語や体験談などのつながりのある文章を読んで、主な内容を読み取ることができる。
Speaking(話すこと)	
●Interaction (やりとり)	○自分が好きなことや日常的にしていることについて、即興でたずねたり答えたりすることができる。 ○身近な人や有名人についてたずねたり答えたりすることができる。 ○自分やクラスメートが体験したことやその感想について、たずねたり答えたりすることができる。
●Production (発表)	○自分が好きなことや日常的にしていることについて、即興で発表することができる。 ○身近な人や有名人について、発表することができる。 ○自分が体験したことやその感想などについて、発表することができる。 ○英文についてまとめ、その概要や感想を伝わりやすい英文で発表することができる。
Writing(書くこと)	○自分が好きなことや日常的にしていることについて、つながりのある文章を書くことができる。 ○自分が体験したことやその感想などについて、つながりのある文章を書くことができる。 ○英文についてまとめ、その概要や感想を書くことができる。

3. 学習内容

1学期	• 1年生の復習 • 未来形 (be going to, will) • 接続詞 (when/if/think that/because) • 不定詞 (形容詞的用法, 副詞的用法, It is ～)
2学期	• have to, must • 動名詞 • 疑問詞+不定詞 • 形容詞+that
3学期	• 比較級, 最上級 • 受け身

*Exerciseでは、Real Life EnglishやALTの授業を中心に行います。

4. 使用教材（毎日の授業に必要なもの）

教科書	NEW HORIZEN English Course 2（東京書籍）
補助教材	ジョイフルワーク（新学社）、語順トレーニング（新学社）
ノート	授業用ノート、自習用ノート
ファイル	ワークシートをとじるファイル（Standardは緑、Exerciseはピンク）

今は「英語は話せて当たり前」というようなことをあちこちで見聞きして、とてもプレッシャーになってしまっている人もいるかもしれません。でもまず言っておきます。

「英語ができなければ人生おしまい」というほどのことはありません。

でも、英語の必要性が高まっているのは確かです。なぜなら、人は支えあって生きているから。地球上のいろいろな人たちと支えあって生きていくうえで必要になってくるのがコミュニケーション。そう、「言葉」です。日本人同士だと困りませんが、これほどまでに外国への行き来が盛んな現代は日本人以外の人たちと出会うこともたくさんあります。そんなときは相手を知り、自分を伝えなくてははいけません。

そこで国際語として「英語」の登場です。文化も違う人たちと出会い、共感するのって素敵なことなんですよ。私も今までにたくさんの国の人と出会ってきました。英語を学ぶ目的はそこにあります。



5. 評価の観点と評価の方法

評価の観点		評価の方法
① 知識・技能	- 英語に関する基礎的な知識（単語・語句・文法など）を理解し、適切な使い方ができる。 - 会話文や説明文などの英語の情報を目的に応じて正しく読み取ることができる。 - まとまった英文を読み、それに関する質問に答えることができる。 - 正しい発音や自然な速さで話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができる。	【定期テスト・単語テストなど】 - 学んだ文法事項について理解している。 - 英文を聞き取り、その内容を正しく聞き取ることができる。 - 英単語の意味やつづりが正確に書ける。
② 思考・判断・表現	- 自分の考えや気持ちが相手に正しく伝わるように話したり、書いたりすることができる。 - 聞いたり、読んだりしたものについて、意見を言うことができる。 - 発表する際に、大きな声ではっきりと話すことができる。	【授業中の様子・課題・音読テストなど】 - 与えられたテーマ、文法事項を用いて正確な英語表現ができる。 - 左記の評価項目にあるような点に気をつけて、発音したり、対話したりすることができる。 【定期テスト・音読・発表など】 - 場面に応じて、適切な表現を話したり、書いたりすることができる。 - 英文を読み、内容を理解し、それについてのまとめを書いたり発表したりすることができる。 - 左記の評価項目にあるような点に気をつけて、英文を聞きとったり、読みとったりすることができるか。
③ 主体的に学習に取り組む態度	- 積極的にコミュニケーションを図ろうと努力している。 - 話し手に聞き返すなどして内容を理解しようとしている。 - 発表、学び合い学習、ノート作りなどを行っている。 - 言語とその背景にある文化について理解している。	【授業中の発言・態度】 - 授業内容を集中してよく聞き、自分の思いや考えを発言しようと意欲的である。 - コミュニケーション活動への取り組み(発音練習やペア、グループでのコミュニケーション活動)に積極的に取り組める。 - 与えられた例をもとに、さらに自分なりの追及や発展をした表現方法・表現内容に挑もうとしている。 - 家庭学習課題や提出物、準備物が確実であり、今学習していることは何であるかを意識して授業に臨んでいる。

6. 学習方法についてのアドバイス

<授業>

1. ペア、グループワークに積極的に参加しよう。

習った英語表現を定着させるために、時間を有効に使い、繰り返し練習しよう。

2. 英語は積み重ねの教科なので、わからないことをそのままにしない努力をしよう。

授業の中で理解できないことがあったら、その場で先生やなにかまに質問しよう。

A L Tの先生に積極的に話しかけてみよう。

<家庭学習>

1. 予習・復習をしっかりとやろう。

○予習として、単語の意味調べを確実にして授業に臨もう。

○授業で習ったところはその日のうちにノートやワークで確認し、繰り返し復習しよう。

テストで間違えた問題は、次回のテストにむけて復習しておこう。

A) 単語や本文の英語の練習は、必ず発音し、意味を考えながら書くようにしよう。

B) 既習の単語リスト、プリントを活用し、何度も繰り返し音読練習しよう。

C) 学習した文法事項を定着させるために、ワーク(問題集)を使い繰り返し練習しよう。

2. 映画や洋楽、テレビやインターネットの英語番組を通して、生の英語に触れる機会を作ろう。